

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室そらま芽			
○保護者評価実施期間	令和 8 年 7 月 6 日 ～ 令和 8 年 7 月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数)	61
○従業者評価実施期間	令和 8 年 7 月 1 日 ～ 令和 8 年 7 月 3 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 8 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学年別グループを基本としたメンバー構成で活動を行ったソーシャルスキルや課題のテーマを年齢に応じた内容に設定することができ、ロールプレイだけでなく共に過ごす時間の中で、実際の場面で汎化できるところ。	学年別に支援目標を立てた上で、個人個人の目標設定や環境調整を行っている。 仲間と過ごす中で声の掛け方や好ましい行動、解決方法などを学んだ上で自ら修正できるように、自身に落とし込める時間を大切にするように心がけている。	そらま芽で実践したことが学校や集団の場で活かされ、子どもたちが自信を持って集団社会生活が送れるように事業所内での成功体験（こうすると良い、これでいいと思えるようになる）を積み重ねられるように、しっかり行動をみて認めていく。
2	同学年同士の繋がりが強くなり、お互いを認め合うことで仲間がいる安心感や、自信を持つことができる。	問題が起きた時にその場でどうしたらよいか、みんなで考える時間を作り、お互いの主張を聞くことで相手のことを知り、相互理解を図っている。	相手の気持ちが分かりにくい場合や、自分の気持ちを上手く言語化できない場合は、適切なタイミングでサポートに入れるようにし、お互いに理解して相手を受け入れる心を育てていく。
3	医療法人tsukushiが運営母体となっているため、児童精神科医師・看護師・公認心理士などと連携をとりながら医学的見地に基づいた支援を提供できるところ。	毎月スタッフミーティングを開催し情報を共有したり、たかのこころクリニックと合同での勉強会、研修を行うことで特性の理解や好ましい支援のあり方を相談しながら療育をアップデートしている。	子どもたちが生活する場が、ハード面だけでなく、ソフト面でも安心・安全な場になるように研鑽を積んでいく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同学年のグループ活動をするため、どうしても学校のクラス的な雰囲気となってしまう。 学校で一日頑張ってきて疲れている放課後にまた頑張るの？と心を重くしてしまう場合もある。	「勉強（宿題などの課題）をやらなければいけない」と思い込んでいる児童、やらされると思っている児童もいる。自らやろうと思う意欲につなげるような関わりとなっておらず、子どもたちにとって不十分な支援なのだと考えている。	集団で過ごす場は楽しい、みんなと一緒にはおもしろいと思えるような課題を提供すること、今話題になっていることや興味があることをテーマ（話題）にするなど、支援する上での課題や環境の設定を工夫する。
2	放課後児童クラブや児童館、地域との交流などが難しい。	・学校平日は利用時間も短く、事業所内での活動が多くなる。 ・春や秋など戸外活動が楽しめる季節には町内の公園やグラウンドに出かけているが交流を図っているとまではいえない。	地域の人たちも発達支援室そらま芽のことを知って下さっていて、西児童センターでのイベント企画などの案内もしていただけるので繋がりを大切にしながらどのような交流ができるのか模索して利用者の子どものためになることを実現させていく。
3			